

第 1 回坂井市水道料金等検討委員会議事録

日 時	令和 4 年 1 1 月 2 4 日(木) 14 : 00~16 : 30	
場 所	坂井市役所 災害対策本部室	
議 題	(1) 上下水道事業の現状について (2) 今後のスケジュールについて	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 委員名簿 ・ 坂井市水道料金等検討委員会設置要綱 ・ 第 1 回水道料金等検討委員会資料 	
出席者	委 員 : 事務局 :	浅沼美忠 南出茂夫 西畑邦子 盛政隆治 北村友美子 鹿島潤司 高野昌之 佐藤憲行 柏山善英 池田禎孝(市長) 新開和典(副市長) 稲葉進(建設部長) 吉川弘志(上下水道課長) 竹内孝治(上下水道課参事) 中島美和(上下水道課長補佐) 田邊和男(上下水道課長補佐) 中野寛幸(上下水道課主任) 高山真治(上下水道課主任)
議事録		
1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 市長あいさつ 4. 委員長及び副 委員長選出 5. 諮問 6. 議事 (1) 上下水道事 業の現状について	(事務局一任との声があったので、委員長に浅沼元福井県立大学経済学部教授を、副委員長に南出税理士を推薦し、承認) (市長より浅沼委員長へ諮問) (事務局より上下水道事業の現状、県内市別水道料金等の比較を説明後、質疑応答)	
委員	地元の集落センターの水の勢いが弱いので確認をしてもらったところ、入口の水道管が老朽化していた。施設が30年以上経過していて、業者もはじめて見る配管構造であったとのこと。施設の使用年数の経過による老朽化対策等の開始の予定や順序があるのであれば教えてほしい。	
事務局	一般的な管の耐用年数は40～50年となっている。耐用年数が30年を経過したのものに関しては、場所や環境によって腐食が進行する場合がある。今後逐次対応していきたい。	
委員長	30年前に建設が集中しており、改築の更新のピークが40年後くらいに現れる。そういった状況を踏まえた40年50年累積の投資データはあるの	

事務局	か。投資計画の支出がどこかの世代に偏ってしまうことがあるのか。 過去に集中して相当な事業費を投入してきたことから、今後その整備量が増えつつある。経営戦略で投資計画を策定しており、過去の投資の量をそのままスライドさせるのではなく、年度ごとになるべく波がないように平準化している。
委員	他市町を含め、大変な状況であることに理解はある。漏水率はどれくらいか。災害等で重要機能が使用不能となった場合に電気事業のようなバックアップのような対応はあるか。
事務局	有収率として、90%以上であり、一部消防活動等を含むが、10%程度が漏水となっている。 現有施設間ではそれぞれをつなぐグループ形式のような、バックアップはできていない。被災時は給水車等、応急対応を行うことで対応することになる。
委員	水道事業は永続的に使用していくことが前提であるはずだが、積立のようなものはないのか。
事務局	過去には黒字の年もあり、黒字分については建設用に蓄えていた。近年、赤字が続くため、それらが枯渇しつつある現状である。第2回にてそれらについてお示ししていく。
委員	すでに赤字や施設の老朽化は進んでおり、一刻も早く検討したほうがいいことが分かるが、検討委員会全体のスケジュールはどうなっているのか。
事務局	事務局案としては第3回を今年度中。その状況を踏まえて、翌年度中には提言まで行いたい。皆様にお諮りしながら進めたい。
委員長	P16はいつのデータか。P25の損益は総収支の不足分か。
事務局	令和3年度である。
委員長	P25の平成27年度に赤字が増えた理由は何か。
事務局	包括委託を行い、コスト増となったためである
委員長	委託料を複数年分支払ったのか。
事務局	単年度分のみ支払った。
委員	平成27年度以降に赤字が大きくなったが、P24で委託料が上がっており、経費削減となっていない。
事務局	包括委託開始の単年度ではなく、複数年での経費削減効果で考えている。
副市長	平成27年度から包括委託となっているが、全体的な削減効果を検証している。改めて、次回以降に詳細内容をお示しすることは可能である。
委員長	次回以降で説明をお願いする。
委員	水道は県水を購入し、下水は県で処理しているが、それらの単価の動向はどうなっているか。
事務局	県水の単価は下がっている状況である。下水道の処理にかかる単価は交渉中で当面は据え置きの手配となっている。しかしながら、県の経営も厳しい状況の中で今後は値上げの方針であると聞いており、下水道処理費について今

	<p>後も検討していく必要がある。</p>
委員長	<p>越前市などは県からの受水の責任水量が固定費の増加の要因となっていた。坂井市はどうか。</p>
事務局	<p>坂井市でも県からの受水は同様に責任水量制である。しかしながら受水水量の95%以上は使用しており、井戸水と県の受水量のバランスを見ながら配水している。</p>
委員	<p>今後必要となる事業費が増大してきているとのことだが、管の更新が始まっていると思うが、現状何kmくらい更新しているのか。</p>
事務局	<p>全体で800kmある管の中で優先順位を踏まえ、古いものから順番に計画的に年間2km程度更新している。今後はペースを上げたいと考えている。</p>
委員長	<p>将来見通しは何年間くらいで見ているのか。</p>
事務局	<p>経営戦略は10年間としている。</p>
委員長	<p>投資の平準化については、10年では不足しないか。</p>
事務局	<p>財政計画は10年でもいいが、投資計画はもっと長期がよい気がする。</p>
委員長	<p>当面は10年間の計画を考えており、その先はまた検討していきたい。</p>
事務局	<p>投資額の推移は把握しているのか。</p>
委員	<p>概ねの把握はしている。投資額をなるべく平準化していかなければならないと考えている。</p>
委員	<p>被災時を想定すると、災害規模が大きい場合、給水車が回せるのか。次回に、現在の耐震化状況や優先順位等がわかる資料があると良い。</p>
委員長	<p>老朽化等、事故の発生状況を知りたい。老朽化や耐震化などを真剣に考えないといけないので。そもそも結構あるのか。増えているのか。</p>
事務局	<p>年間約100件程度、比較的小規模な漏水がある。大規模な漏水は発生していないが件数は増えつつある。現場や配管の状況を見ると古い所が多い。</p>
委員	<p>資料が準備できればお願いしたい。維持に係る費用も含めて。</p>
委員	<p>これまでは使用者目線であったが、今回の説明で事業の内容がわかることができた。もっと広く、使用者に上下水道事業について理解されるべきであると感じている。広報やPR等が重要となってくるのではないか。</p>
委員	<p>現在の坂井市の料金は安いと感じた。いくらくらい上昇すると、どうなるか、シミュレーションはしていると思うので、次回以降に聞きたい。</p>
事務局	<p>合併以前にそれぞれの集落で使用していた井戸等を放置しているようであるが、災害時に利用できないか。</p> <p>第2回以降に事務局案として、こうした場合にはこれくらいの収入が確保できるとかこうした場合にはこうした投資計画ができるという収支計画をお示ししようと考えている。</p> <p>災害時の利用について、休止中の井戸は水質を考慮すると利用は難しいが、利用可能なものは利用していきたいと考えている。</p>

(2) 次回のスケジュールについて

事務局

(次回の開催日について調整)

第2回は令和5年1月18日 午後2時で調整する。

7. 副市長あいさつ

8. 閉会